

大田市場における共同配送の 可能性について実証検証

2019. 11. 28

株式会社物流革命

物流革命グループ紹介

株式会社物流革命

関係会社
株式会社
韓国物流革命

- ①物流特化型コンサルティング
- ②人材派遣事業

- ・ 物流特化型コンサルティング業務
- ・ スーパー、倉庫等運営会社への人材派遣業務

株式会社Opex

- ①青果事業
- ②3PL事業
- ③ゴルフ共同配送事業

- ・ 大田市場（仕入）⇒大規模小売店
- ・ 倉庫内物流業務委託（関東、関西全域大規模小売店他）
- ・ ゴルフメーカー共同配送

株式会社生活支援物流

- ①お買い物お届けサービス

- ・ 会員は、100円＋消費税の支払いだけで30分～3時間以内にご自宅へお届け

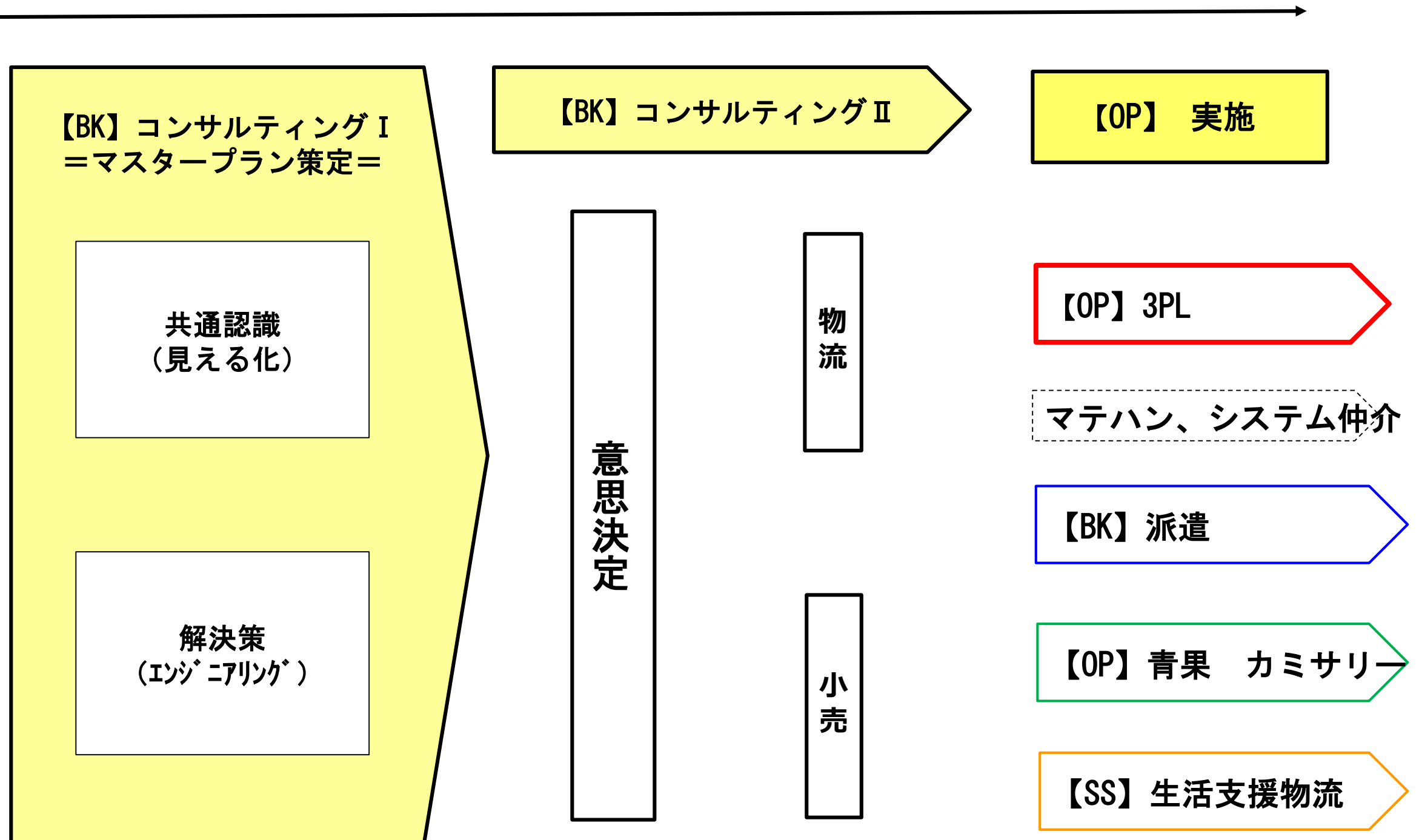
コンサルティング
コンサル実績 200社以上

オペレーション
国内10ヶ所

サービス
“コメットさん”
8社 85店舗

物流革命グループ紹介

課題の共通認識を作り、業務改革計画の意思決定を支援し、実現まで支援。

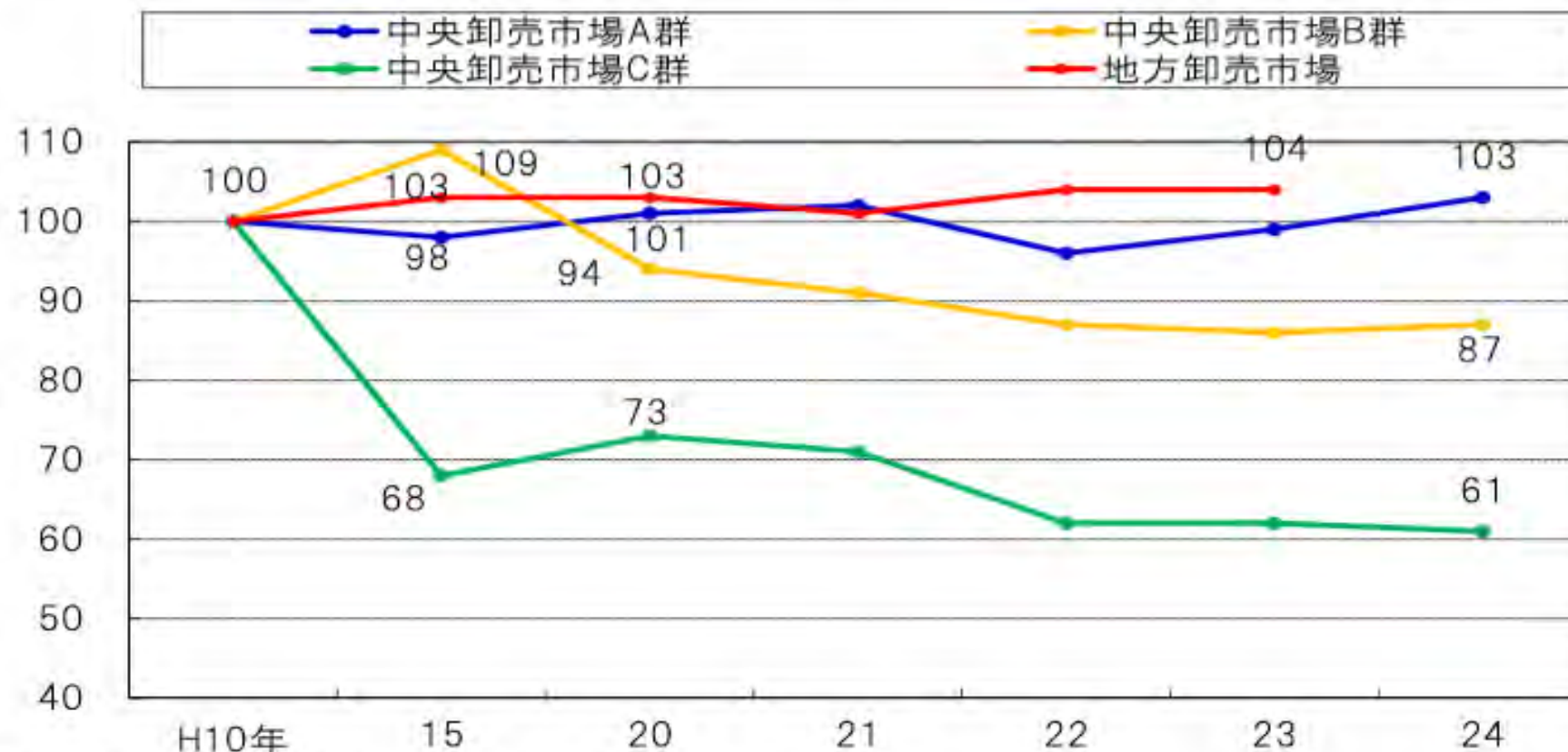


中央卸売市場

- 立地条件や開設者によって分類した中央卸売市場における青果物取扱数量のH10年からH24年の間における増減率は、東京都中央卸売市場大田市場（A群）では+3%、開設者が政令指定都市、都府県の中央卸売市場（B群）では▲13%、その他の中央卸売市場（C群）では▲39%となっており、C群の減少率が大きくなっている。
- H10年からH23年の間における地方卸売市場の取扱数量は4%増となっている。

○中央卸売市場の分類条件

- ・中央卸売市場A群：大田市場
- ・中央卸売市場B群：開設者が政令指定都市、都府県の中央卸売市場（大田市場除く）
- ・中央卸売市場C群：その他の中央卸売市場



注：平成10年の取扱数量を100とした時の、各年の取扱量である。

大田市場

所在地 大田区東海三丁目2番1号

平成元年に、青果の旧神田市場・荏原市場、水産の大森市場を統合して開設。平成2年に、城南地域の花き地方市場を統合、
青果部・水産物部・花き部の3部門を有する総合市場。

大田区の臨海地域で、敷地約40万平方メートル、隣に野鳥公園、南側には羽田国際空港、東側には東京港、北側にはJR貨物基地がある。
青果部・花き部では、日本一の取扱規模を誇っており、大田市場での決定価格は、日本全国の市場の指標となっています。

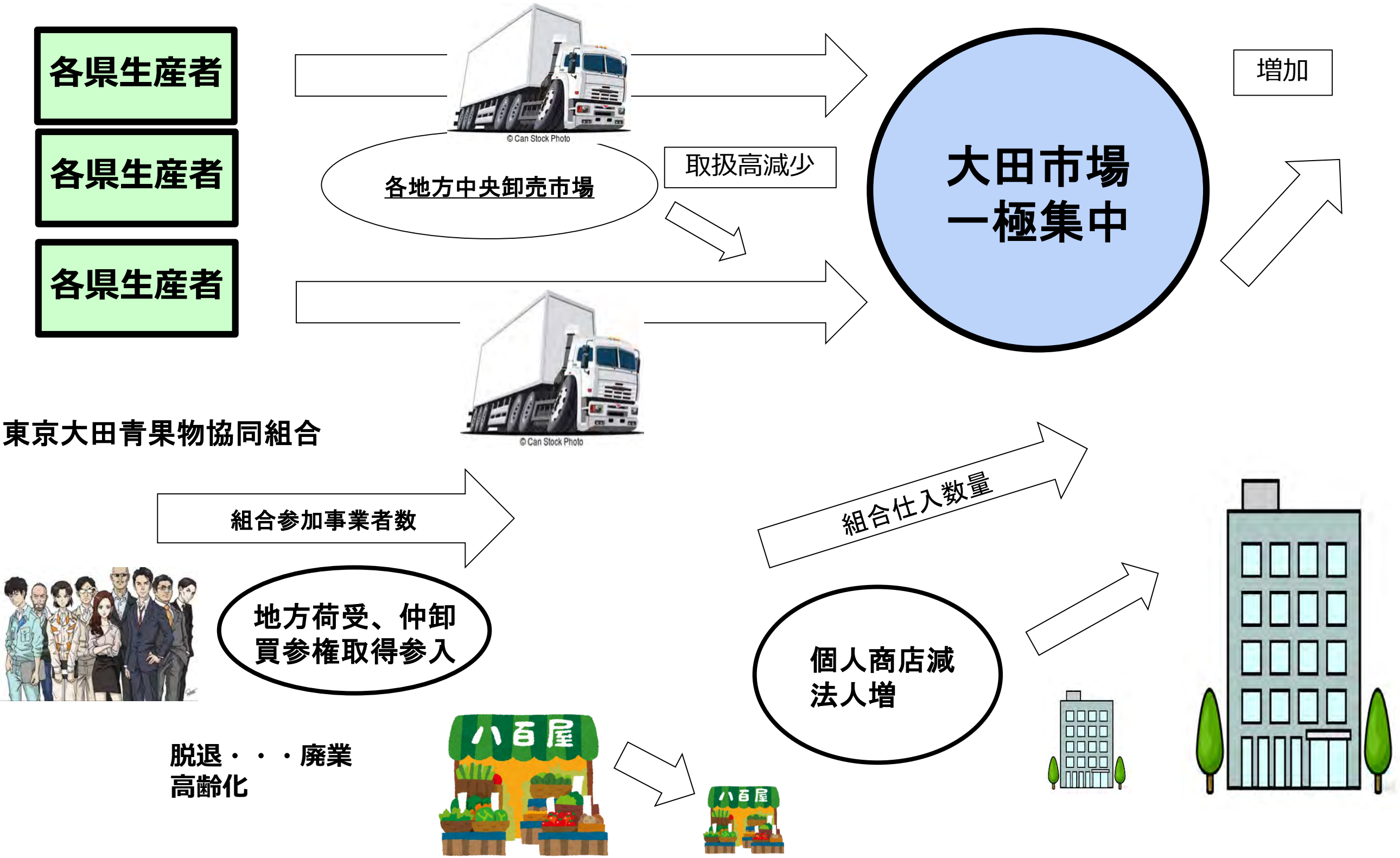


業務開始年月日	•取扱品目
平成元年5月6日（青果）	水産物・青果物・花き
平成元年9月18日（水産）	•取扱数量（金額）
平成2年9月8日（花き）	水産：29t（37百万円）
	青果：3,747t（1,167百万円）
	花き：262万本（159百万円）
	※ 平成30年1日当り
	•敷地面積（建物面積）
	386,426平方メートル（298,313平方メートル）

- 交通アクセス
 - ・ JR品川駅より都バス、または、JR大森駅・京浜急行平和島駅より京急バス いずれも「大田市場」行
 - ・ 東京モノレール流通センター駅下車 徒歩20分
 - ・ JR大森駅より京急バス「京浜島」又は「城南島」行 京浜大橋下車 徒歩1分

東京都中央卸売市場HPより抜粋

大田市場



東京 大田市場合計 (開市日数 259日)

青果		数量 t	金額 千円
	野菜	744, 904	194, 485, 183
	果実	215, 924	105, 285, 877
	計	960, 829	299, 771, 060

大阪 本場・東部市場合計 (開場日数256日)

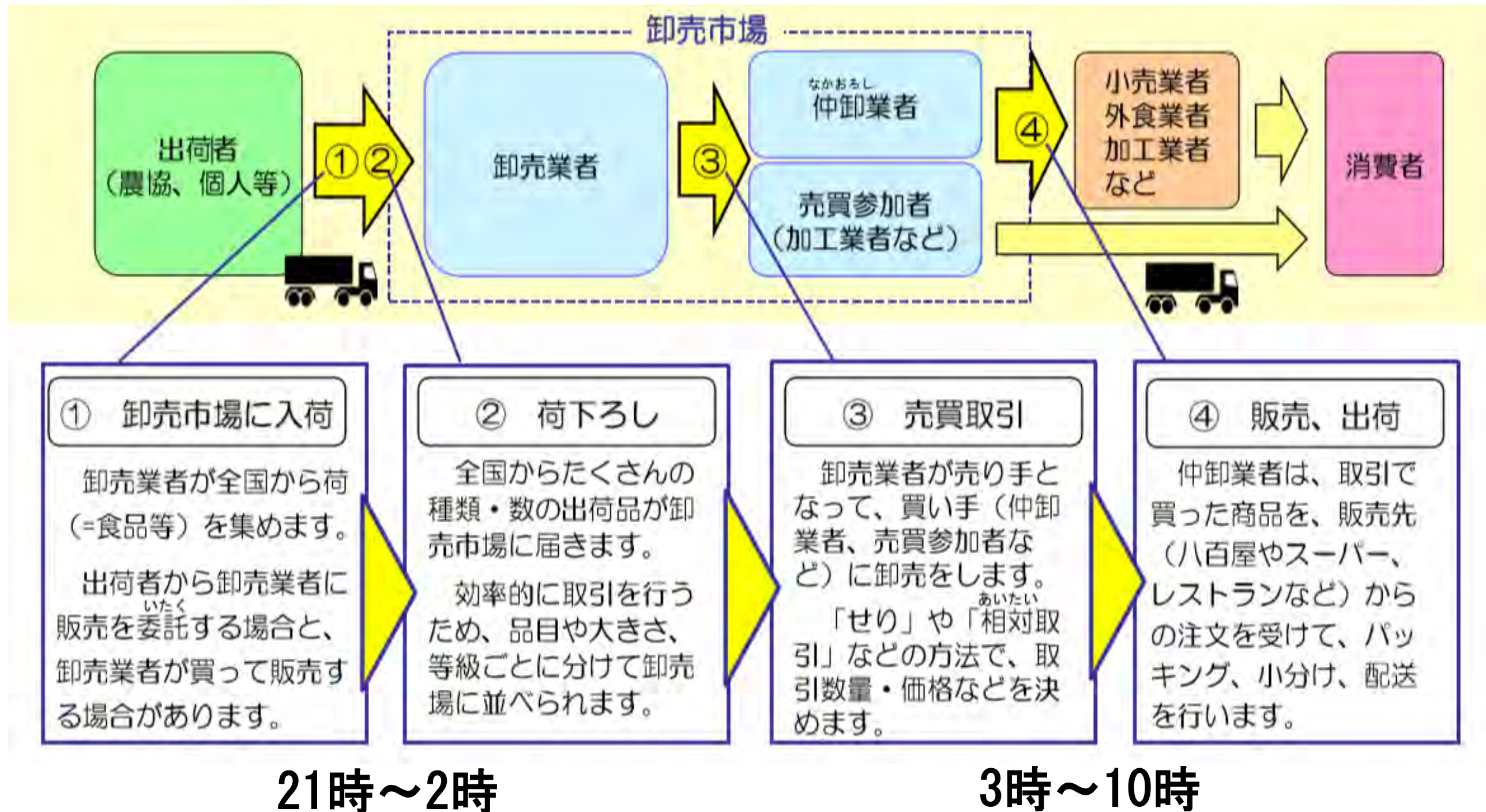
青果		数量 t	金額 千円
	野菜	500, 605	118, 566, 234
	果実	195, 702	81, 081, 807
	計	696, 307	199, 648, 041

	青果部
卸売業者	4
仲卸業者	166
売買参加者	1, 169
関連事業者	74
計	1, 413

	青果部
卸売業者	5
仲卸業者	150
売買参加者	32
計	187

中央卸売市場

卸売市場の一日の仕事



農水省HPより抜粋

大田市場

大田市場 配置図

令和元年6月現在

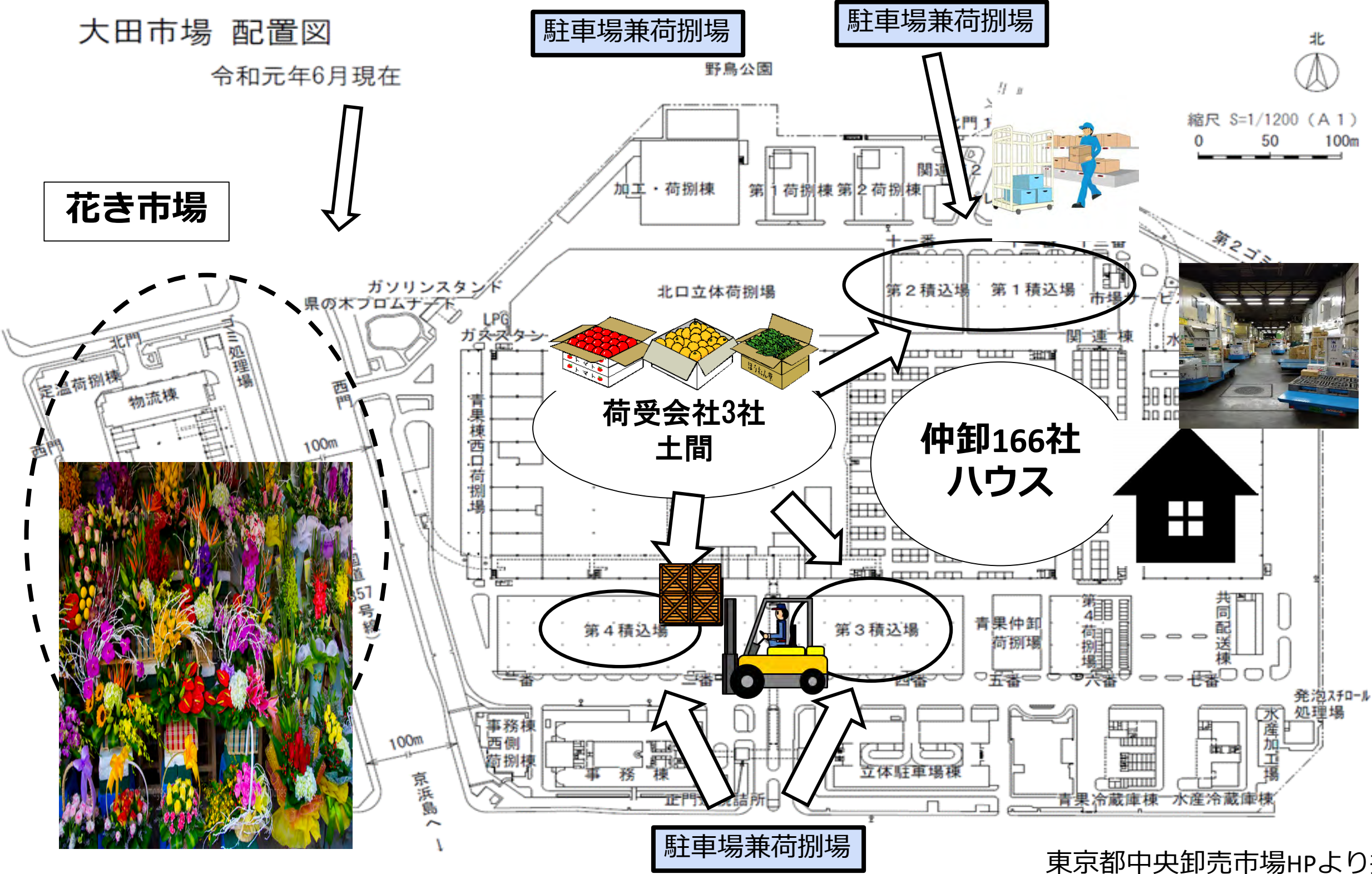
花き市場

駐車場兼荷捌場

駐車場兼荷捌場



縮尺 S=1/1200 (A1)
0 50 100m



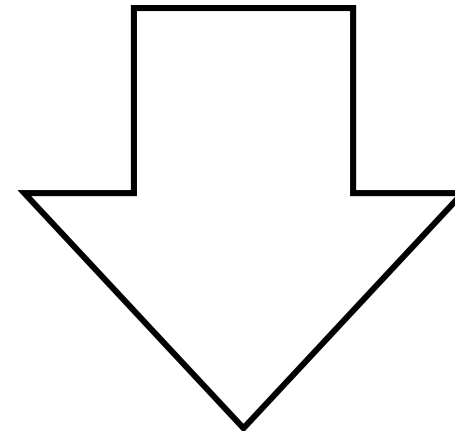
東京都中央卸売市場HPより抜粋

実証

◎大田市場における現状の問題点



- ・大田市場ロジスティクス起点の業務設計 ✖。
- ・市場への入荷・各事業者への分荷・各事業者による仕分け・顧客への配送、サプライチェーン全般に渡り業務効率が著しく低下。
- ・各事業者は、従事者の高齢化・配送トラック不足の問題が深刻で事業継続も危ぶまれている状況。



◎目標

- ・組合所属各事業者の受注・仕分・配送を大幅に効率化し、コストの低減・CO2の低減、配送役務負荷の低減を図ると共に、市場内の仕分け場所を集積・効率化を目指すことを第一のステップ。



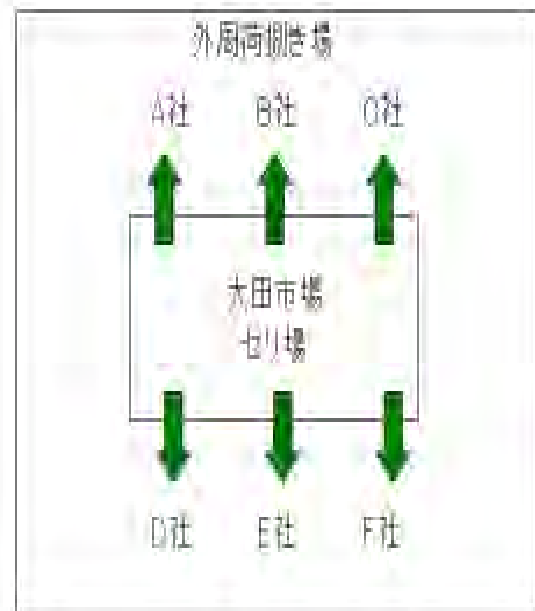
実証

大田市場の現状

大田市場は、物量の増加に場所の確保が追い付かず、荷捌き～配送等ロジスティクスの業務効率が著しく低下しております。

荷捌き

大田市場では、個社ごとに、セリ場の外周道路上に場所を確保し、荷捌きを行っています。



配送

さらに、個社ごとはばらばらに方面別に納品が行われております。



Copyright©2018 Logistics Innovation co.,ltd. All rights reserved.

目指す姿：共同ロジスティクスモデル

荷捌き・配送を共同化し、業務を効率化します。

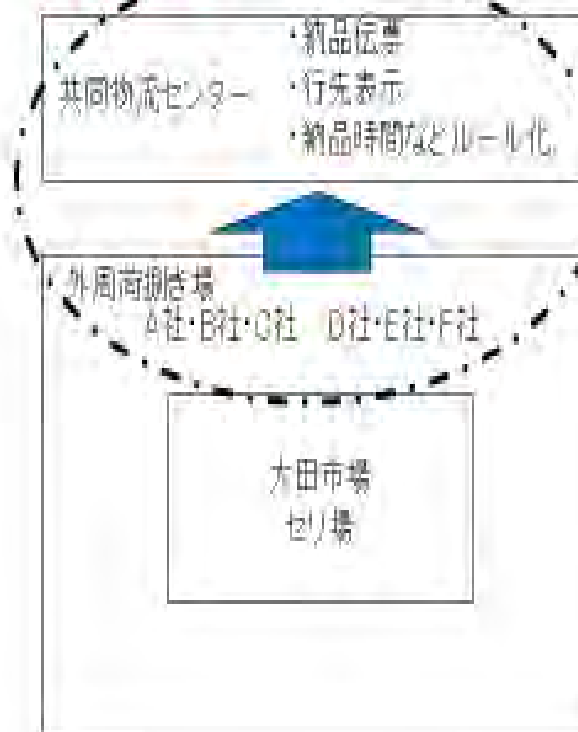
荷捌き

統一荷札発行システムを開発し、配達先・納品時間等を共通ルールで管理します。

配送

共同配車管理システムにて共通で配送ルート組を行い、方面別に共同配送を行います。

クラウド化



Copyright©2018 Logistics Innovation co.,ltd. All rights reserved.

☆現状分析⇒効率化への調査
株式会社物流革命、早稲田大学吉本研究室

実証

☆共同物流による効率化

- ・各参加企業の納品先への配送経路を統合最適化し、配送時間・配送距離を短縮し、費用削減を実現することを目指す。
- ・共同配送により、荷捌き業務・配送業務の効率化・最適化を行い、労働力不足問題の軽減、CO2排出量の削減を図る。



☆予想効果

- ①大田市場場内の荷捌きや配送業務の共同化が進み、結果、事業者コストが低減される。
- ②物流の効率化による生産者から消費者へ、鮮度の良い野菜をお届けするという市場本来の機能を、継続的に担保することができる。
- ③ ①、②から大田市場以外の市場における共同物流への取り組みの促進が期待され、市場活性化の一翼を担うことができます。

☆大田市場から地方卸売市場へ